

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

平成 29 年度

事業報告書及び決算書

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日



EXPO'90
FOUNDATION

目次

事業報告書

はじめに	9
I. 事業	
1. 顕彰事業	9
(1) コスモス国際賞	
(2) BIE コスモス賞	
(3) 全国花のまちづくりコンクール事業	
2. 助成・協働事業	11
(1) 調査研究、行催事等助成事業	
(2) 花とみどりの復興活動支援助成事業	
(3) 地域協働事業	
3. 普及啓発事業及び国際交流事業	15
(1) 次世代育成事業	
(2) 花育推進事業	
(3) 都市緑化推進運動等への協力事業	
(4) 普及啓発事業	
(5) 国際交流事業	
4. 調査研究・資料収集事業	21
(1) 生物多様性等に関する調査	
(2) 里山等の共生に関する調査	
II. 庶務・管理	
1. 理事会・評議員会等	25
2. 内閣府届出及び情報公開	26
3. その他	26
決算書	
III. 財務諸表	
1. 貸借対照表	29
2. 損益計算書（正味財産増減計算書）	31
3. 附属明細書	41
4. 財産目録	42
IV. 監査報告書	47

平成 29 年度

I. 事 業

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

はじめに

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（以下「協会」という。）は、国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の「自然と人間との共生」という理念を継承し発展させることを目的に、花の万博記念基金を活用し、年次事業計画書に沿って各種事業を行っている。

平成 29 年度は、公益法人移行 5 年度目として、協会の中心的事業であり 25 年の節目を迎えた「コスモス国際賞」関連事業を行った他、中長期計画を策定し、助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業を滞りなく行った。

I. 事業

1. 顕彰事業

(1) コスモス国際賞

花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」（以下「コスモス賞」という。）の 2017 年（第 25 回）受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施した。

また、2018 年（第 26 回）の受賞候補者の推薦を国内外の推薦人に依頼するため、推薦状を発送した。

ア. 受賞者の選考等

コスモス賞委員会（以下「賞委員会」という。）及びコスモス賞選考専門委員会（以下「選考委員会」という。）を設置し、次の選考作業を行った。

(ア) 2017 年（第 25 回）受賞者の選考等

- ・平成 29 年 5 月 16 日及び 22 日に第 1 回、第 2 回選考委員会が開催され、2017 年受賞者選考対象 150 件の推薦に基づき、慎重な選考作業が実施された。
- ・平成 29 年 6 月 19 日に第 3 回選考委員会及び第 2 回賞委員会が開催され、2017 年受賞候補者にジェーン・グドール博士（ジェーン・グドール・インスティテュート創設者）が選定された。
- ・選考の経緯及び結果は、平成 29 年 7 月 19 日開催の第 95 回理事会に推挙され、受賞者として決定した。また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表を実施した。

(イ) 2018 年（第 26 回）受賞者の選考準備等

- ・平成 30 年 1 月 24 日に第 1 回賞委員会が開催され、2018 年（第 26 回）受賞者の受賞者選考に対して選考方針及び今後の日程等について審議された。

・国内外約 1,600 名の推薦人に対し、受賞候補者の推薦依頼を行った。

イ. 2017 年（第 25 回）コスモス賞授賞式及び晩餐会の開催

国内外からの賓客及び招待者約 350 名の参列のもと、授賞式を開催するとともに、ジェーン・グドール博士を囲み、賞委員会・協会関係者による晩餐会を行った。

(ア) 授賞式

日 時：平成 29 年 11 月 6 日（月）午後 3 時～5 時

場 所：いずみホール（大阪市中央区）

出席者：約 350 名

(イ) 受賞記念晩餐会

日 時：平成 29 年 11 月 6 日（月）午後 5 時 30 分～7 時

場 所：ホテルニューオータニ大阪（大阪市中央区）

出席者：23 名

ウ. コスモス国際賞受賞記念講演会

2017 年受賞者ジェーン・グドール博士による講演会を平成 29 年 11 月 7 日（火）に京都市左京区の京都大学・益川ホールで、11 月 9 日（木）に首都大学東京荒川キャンパス講堂で開催した。（詳細別表 1 のとおり）

（別表 1）

		京都	東京
日	時	平成 29 年 11 月 7 日（火） 午後 3 時～5 時	平成 29 年 11 月 9 日（木） 午後 4 時～6 時
場	所	京都大学・益川ホール （京都市左京区）	首都大学東京荒川キャンパス講堂 （東京都荒川区）
講演	テーマ	「森の隣人・森の旅人」	—
	講師	2017 年コスモス国際賞受賞者 ジェーン・グドール 博士（ジェーン・グドール・インスティテュート創設者）	
次第等	講師等	講演 松沢哲郎博士 （コスモス国際賞選考専門委員会委員、京都大学高等研究院特別教授） 講演 山極壽一博士 （京都大学総長）	受賞者紹介 林 良博博士 （国立科学博物館館長・コスモス国際賞選考専門委員会委員長）

参加者	約 170 名	約 300 名
共催	京都大学高等研究院	東京都教育委員会
後援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、英国大使館	

エ. コスモス国際賞 25 周年記念のつどい・シンポジウム

コスモス国際賞 25 周年を記念して、「コスモス国際賞 25 周年記念のつどい・シンポジウム」を、皇太子同妃両殿下のご臨席の下、過去の受賞者等も招いて、11 月 10 日、東京都渋谷区の国際連合大学ウ・タント国際会議場で開催した。

日 時：平成 29 年 11 月 10 日（金）午後 2 時～5 時

場 所：国際連合大学ウ・タント国際会議場（東京都渋谷区）

共 催：国際連合大学サステイナビリティ高等研究所

参加者数：250 名

（2）BIE コスモス賞

協会の存在及びコスモス賞の国際的な PR のため、平成 19 年度より BIE（博覧会国際事務局（本部パリ））と開催国の万博協会が行う「BIE コスモス賞」については、平成 29 年度は、カザフスタン・アスタナで開催されたアスタナ万博のテーマ、「未来のエネルギー」に関する活動、プロジェクトを顕彰する第 5 回 BIE コスモス賞に参画、支援を行った。

平成 29 年 9 月 6 日にアスタナ万博会場で開催された選考委員会に参加し、レソト王国の「Solar Energy Collector（太陽エネルギー集積装置）」に賞を贈ることを決定した。アスタナ万博閉会の前日（BIE デー）の平成 29 年 9 月 9 日（土）に開催された授与式に出席し、賞金 2 万ユーロを授与した。

（3）全国花のまちづくりコンクール事業

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画し、第 27 回（2017 年）花のまちづくりコンクールを実施した。

応募数：1,851 件

入 賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各 2 点をはじめ 24 点

表彰式：開催日 平成 29 年 10 月 26 日（木）

場 所 東海大学校友会館（東京都千代田区）

2. 助成・協働事業

（1）調査研究、行催事等助成事業

花の万博の理念の継承、発展又は普及啓発に資する調査研究開発、活動・行催事等

を支援する助成事業を次のとおり実施した。

ア. 平成 29 年度は、別表 2 の 34 団体（採択 35 団体のうち 1 団体辞退）に対し約 11,386 千円の助成を行うとともに、平成 30 年度の助成公募等を行った。

(別表 2)

	助成団体名	事業名
調査研究開発	NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ	草原環境の保全のための野生動植物のモニタリング調査
	屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊	ヤクタネゴヨウの調査研究と成果発表シンポジウム開催
	公益財団法人高知県牧野植物園	植物標本管理のためのプラットフォーム形成事業
	洞爺湖生物多様性保全協議会	洞爺湖ウチダザリガニ捕獲調査活動
	京都大学・神戸大学 林冠生態学研究チーム	芦生研究林内保存木の着生植物群集の保全生物学的研究
	NPO 法人おおいた環境保全フォーラム	稀少種カワツルモを指標とし潟湖・龍神池の再生事業
	富士山自然誌研究会	富士山の保護上重要な野生植物の生態と分布調査
	特定非営利活動法人社叢学会	東日本大震災被災地での 6 年の社叢調査研究のまとめ
活動・行事	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	日韓バイカモ保全国際交流サミット
	自治医科大学とちぎ子ども医療センター花咲 j i i	自治医科大学とちぎ子ども医療センター園芸緑化活動
	公立大学法人大阪市立大学(シンポジウム実行委員会)	大阪市立大学国際学術シンポジウム「人と植物の共生」
	NPO 法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会	生物多様性保存型里山ビオトープの形成に関する事業
	いこま棚田クラブ	生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造
	かのご里山村	かのご里山村・里山資源活用プロジェクト
	奈良市立鶴舞小学校「鶴舞エコロジカルネットワークの会」	小学校を拠点とした地域における環境保全と環境教育
	特定非営利活動法人山の自然学クラブ	気仙沼周辺の在来植生・海岸植物の市民調査と保全活動
	刈又池周辺森林整備研究会	創意工夫を活かした健康づくりの森と憩いの森事業
	特定非営利活動法人メリーポピンズの会	「花と緑でまちを元気に」の活動
	美幌報徳会	「帯広の森」づくり活動
	東京都立園芸高等学校バラ園協議会	生徒と地域が創る理想のバラ園地域連携事業
	四国自然史科学研究センター	四国における特定外来生物ソウシチョウの防除
	災害対策ボランティアネットワーク	東北被災地障がい者施設の花・果樹苗プロジェクト
	NPO 法人白神自然学校一ツ森校	またぎの自然と共生する知恵を学ぶ
	特定非営利活動法人吉里吉里国	自然の恵みを体感する森林教室
	公益社団法人日本植物園協会	植物園シンポジウム「江戸時代の妙薬と薬草」
	認定特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト	地域とともにつくる「エゾカンゾウのまち・霧多布」
	ECOKA 委員会	鹿ノ台周辺緑地整備と里山の自然を楽しむ活動

伊吹くらしのやくそう倶楽部	伊吹の薬草復活プロジェクト
特定非営利活動法人犬山市民活動支援センターの会	“森と遊ぼう” 東北っ子と犬山っ子の自然交流
つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を体系的に学ぶ体験的環境学習
オープンフォレスト in 松戸実行委員会	オープンフォレスト in 松戸
さやまっちガーデナー	オープンガーデンマップを活かした花のまちづくり事業
一般社団法人日本植物細胞分子生物学会	日韓中植物バイオテクノロジー三国間合同シンポジウム
公益社団法人園芸文化協会	園芸文化をみんなで守ろうセミナー

イ. 助成事業審査委員会を設け、応募のあった助成対象団体の審査を行った。

(ア) 公募及び審査

公募期間：平成 29 年 8 月 1 日（火）～9 月 15 日（金）

応募数：65 件

審査期間：平成 29 年 10 月～平成 30 年 1 月

(イ) 助成対象団体の決定

助成事業審査委員会の結果は理事長に答申され、第 96 回理事会（平成 30 年 3 月 23 日）において平成 30 年度の助成対象 33 件を決定した。

(2) 花とみどりの復興活動支援助成事業

阪急電鉄株式会社からのご寄附を受け、東日本大震災の被災 6 県（青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉）において、花とみどりによる復興活動を行う団体へ助成支援を行った。

ア. 公募及び審査

公募期間：平成 29 年 4 月 1 日（土）～平成 29 年 5 月 15 日（月）

審査期間：平成 29 年 6 月

イ. 活動団体の決定等

復興活動支援助成事業審査会を設け、申請内容を審査し、申請 21 件の中から別表 3 の団体 11 団体（採択 14 団体のうち 3 団体辞退）に対し 3,777 千円の助成を行った。

(別表 3)

団体名	所在地	事業名
久慈市立小袖小学校 P T A	岩手県	天與の花を咲かす喜び—小袖プロジェクト—
NPO 法人スマイルシード	宮城県	【環境コミュニティ体験】多世代交流美化活動
NPO 法人チームふくしま 福島ひまわり里親プロジェクト	福島県	次世代応援・ひまわりプロジェクト

逢瀬さくらの里	福島県	震災を忘れない！逢瀬さくら守り育成事業
NPO 法人しんせい	福島県	障がい者と地域を結ぶコミュニティーガーデン
NPO 法人勿来まちづくりサポートセンター	福島県	防災緑地植樹祭ドングリ採取&ウォーク事業
NPO 法人パワーアップ支援室	岩手県	花・陽だまり・心の和みプロジェクト
はなあそび	福島県	心の復興を目的とした復興支援活動
ナチュラルギフト	岩手県	花とみどりの元気ひろば
NPO 法人サンガ岩手	岩手県	復興の花壇に集おうプロジェクトⅢ
花響 HANS YURA	福島県	花と緑でまちづくり 会津オープンガーデン

(3) 地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働し、次の事業を実施した。

ア. 歴史の道みどりの拠点づくり事業

街道を人間の生活と自然の接点と捉え、緑あふれる空間を創造することにより、「自然と人間との共生」という理念の継承発展につなげ、人間にも自然にも魅力的な環境づくりを目指して、旧街道等の歴史的に価値のある道を、自治体等が主導的に構想や計画を立て、地域と一緒に整備していく支援をすることとして公募し、1件の事業を採択した。採択した事業は、平成30年度に実施する。

イ. 子どもたちと育てる花と緑のコミュニティづくり事業

学校花壇で地域の人と児童が花苗を育て、学校内外を花や緑で飾る本事業は、平成26年度～28年度の3年間実施した。平成29年度はその成果を取りまとめた報告書を300部作成し、関係団体等に配付した。

ウ. 花と緑の交流広場「自然と人間との共生フェスタ in 滋賀」

滋賀県やその周辺で、自然保護や緑の創出などを行う市民団体や花博記念協会が過年度に助成した団体の発表の場を設け、情報の共有や協働のネットワークを促進し、共生の輪を広げることを目的に実施した。

日 時：平成30年2月17日（土）正午～午後6時30分

場 所：滋賀県立琵琶湖博物館ホール、セミナー室

参加団体：20団体

参加者：約130名

共 催：滋賀県立琵琶湖博物館

後 援：農林水産省、国土交通省近畿地方整備局、環境省近畿地方環境事務所、

草津市

その他：エクスカカーション 3箇所視察。

3. 普及啓発事業及び国際交流事業

(1) 次世代育成事業

協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、児童を対象に開催しているもので、平成29年度は、屋外での自然観察教室（フィールド型セミナー）、小学校講師派遣（講師派遣型セミナー）を引き続き実施した。

また、次世代育成とマスコミとの連携強化のため、毎日新聞大阪本社との共催による小・中学校生態園づくりを実施した。

さらに、幼稚園児等を対象とした「昆虫クエスト大作戦」を実施した。

ア. 自然観察教室「コスモスセミナー 集まれ！生き物好きな子供たち」

開催日：平成29年8月9日（水）～11日（金）

場 所：兵庫県立奥猪名健康の郷（兵庫県川辺郡猪名川町）

講 師：三橋 弘宗（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）

山内 健生（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）

谷 幸三（一般社団法人淡水生物研究所理事）

参加者：近畿圏の小学校4～6年生 30名

イ. 小学校講師派遣（講師派遣型セミナー）

小学校への出張授業13件実施した。（別表4のとおり）

（別表4）

日	学校名・参加者	テーマ	講 師
平成29年6月12日	豊中市立東泉丘小学校 3年生 82人	昆虫について	谷幸三 （一社）淡水生物研究所理事
平成29年6月28日	大阪市立北田辺小学校 3年生 70人	虫のからだのつくり や生活の様子などについて	谷幸三 （一社）淡水生物研究所理事
平成29年7月4日	大阪市立遠里小野小学校 3年生 34人	昆虫について	谷幸三 （一社）淡水生物研究所理事
平成29年7月6日	東大阪市立桜橋小学校 3年生 72人	環境に集う動物や植物について	谷幸三 （一社）淡水生物研究所理事
平成29年7月14日	大阪市立大宮小学校 3年生 63人	昆虫について	谷幸三 （一社）淡水生物研究所理事

平成 29 年 9 月 13 日	河内長野市立三日市小学校 3 年生 118 人	昆虫について	谷幸三 (一社) 淡水生物研究所理事
平成 29 年 9 月 21 日	堺市立東陶器小学校 3 年生 126 人	昆虫について	谷幸三 (一社) 淡水生物研究所理事
平成 29 年 10 月 4 日	大東市立南郷小学校 5 年生 121 人	動物の命について	長瀬健二郎 (元天王寺動物園園長)
平成 29 年 10 月 20 日	東大阪市立藤戸小学校 5 年生 64 人	動物の命について	長瀬健二郎 (元天王寺動物園園長)
平成 29 年 11 月 28 日	高槻市立松原小学校 3 年生 94 人	昆虫について	谷幸三 (一社) 淡水生物研究所理事
平成 29 年 12 月 13 日	堺市立三原台小学校 理科栽培委員会 5、6 年生 32 人	堺の歴史・景観(風景)について	増田昇 (大阪府立大学名誉教授)
平成 30 年 1 月 24 日	大阪市立生野小学校 4 年生 25 人	大和川の自然について	谷幸三 (一社) 淡水生物研究所理事
平成 30 年 2 月 26 日	奈良市立飛鳥小学校 4 年生 97 人	動物の命について	長瀬健二郎 (元天王寺動物園園長)

ウ. 小・中学校における生態園づくり

毎日新聞社と共催し、生態園（ビオトープ）を 4 校に設置した。また、前年に設置した小・中学校においては、生物の観察の様子や記録を毎日新聞紙面や毎日新聞ホームページで紹介した。（別表 5 のとおり）

（別表 5）

実施校	所在地	実施内容
尼崎市立清和小学校	兵庫県尼崎市	「学校まるごとビオトープ」
寝屋川市立桜小学校	大阪府寝屋川市	生命輝く学校づくりプロジェクト
守口市立佐太小学校	大阪府守口市	学校生活に寄り添う水辺
神戸市立雲中小学校	神戸市中央区	ビオランド再生プロジェクト

エ. 鶴見緑地昆虫クエスト大作戦

幼稚園・保育園児とその保護者を対象とした「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」を実施し、自然と触れあう楽しさを親子で体験できる機会を提供した。

開催日：平成 29 年 9 月 23 日（土・祝）

場 所：花博記念公園鶴見緑地

講師：八木 剛（兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）

参加者：大阪市鶴見区、城東区の幼稚園児とその家族（300名）

（２）花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施した。

（３）都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間（４～６月）」および「都市緑化月間（１０月）」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力した。

（４）普及啓発事業

花の万博が開催された地元大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施した。

ア．大阪都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画、支援し、会場内の出展ブースに協会の事業紹介パネルの展示等を行った。

開催日：平成29年9月30日（土）～10月1日（日）

場 所：万博記念公園お祭り広場（大阪府吹田市）

来場者：約33,000名

主 催：当協会、大阪府、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

イ．はならんまん

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画、支援し、会場内の出展ブースに協会の事業紹介パネルの展示を実施した。

開催日：平成29年10月14日（土）～15日（日）

場 所：花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区）

来場者：約12,000名

主 催：当協会、大阪市

ウ．みどりのまちづくり賞（大阪ランドスケープ賞）

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第7回みどりのまちづくり賞に参画し、花博記念協会会長賞等を授与し

た。

開催日：平成 29 年 11 月 23 日（木・祝）

場 所：花博記念ホール（大阪市鶴見区）

来場者：約 60 名

主 催：当協会、大阪府、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

エ. その他

（ア）広報・報道活動

- ・コスモス国際賞の新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し、授賞式等で配付したほか、2017 年（第 25 回）受賞者の業績、コスモス賞の趣意、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書（変形 A4 判 84 頁）を作成（2000 部）し、国内外の関係者に配付した。

また、2015 年の受賞者、ロックストローム博士の業績や活動内容を、写真や図を配しながら気軽に読める冊子の英語版を刊行（1000 部）した。

平成 29 年 8 月 24 日から 26 日に、スウェーデン・ストックホルムで開催された第 7 回サステイナビリティ学国際会議（International Conference on Sustainable Sciences）においてロックストローム博士の英語版冊子を配付し、コスモス国際賞を中心とした協会事業の紹介、ビデオメッセージの放映を行った。

- ・各事業の周知のため、各種チラシ、パンフレット、報告書等を作成し、配布した他、事業毎に東京・大阪の記者クラブに資料を提供し、マスコミキャラバンを実施した。
- ・各事業の理解促進・普及のために協会ホームページを適宜更新するとともに、ソーシャルネットワーク（Facebook）でも事業紹介を行った。

（イ）情報等の提供、その他普及啓発

- ・理念の理解と促進を図ると共に、協会の蓄積情報を発信するため協会情報誌『KOSMOS』（変形 A5 判 24 頁 1,000 部）の 2 号、3 号を発刊し、関係者に配付した。
- ・今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行った。
海外・国・地方自治体等—10 件、企業・個人—7 件

- ・各種行催事等に協賛・後援・会長賞の交付を行った。（詳細別表 6 のとおり）

(別表6)

催事名 (開催時期)	開催場所	主催	名義
平成 29 年度大阪府花の文化園幼児・小 中学生花の絵画展 (H30. 1. 5~2. 4)	大阪府立花の文化園 イベントホール (大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・ E-DESIGN 共同企業体	後援 会長賞
第 14 回 2017 周防町通り「はなまつり」 (H29. 5. 1~5. 31)	周防町通りと大阪市立 南小学校 (大阪市中 央区)	ヨーロッパ村周防町通り 商店会	後援
第 2 回清流の国ぎふ花かざりコンテスト (H29. 6. 1~10. 8)	岐阜県全域	岐阜県	後援 会長賞
「ハンギングバスケット&コンテナガー デンショウ」(H29. 9. 26~10. 9)	花博記念公園鶴見緑地 内 咲くやこの花館 (大阪市鶴見区)	鶴見緑地スマイル 5、 一般社団法人日本ハンギ ングバスケット協会	後援
水都お ^{もり} おさか森林の市 2017 (H29. 10. 22)	近畿中国森林管理局・毛 馬桜之宮公園周辺 (大阪市北区)	水都お ^{もり} おさか森林づく り・木づかい実行委員会	後援
「しょくぶつえんのハンギングバスケット ギャラリー」(H29. 10. 6~10. 16)	服部緑地 都市緑化植 物園池前テラス (大阪府豊中市)	一般財団法人大阪府公園 協会	後援
平成 29 年度「都市緑化月間」 (H29. 10. 1~10. 31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協賛
ぎふフラワーフェスティバル 2017 (H29. 10. 7~10. 8)	花フェスタ記念公園 (岐阜県可児市)	清流の国ぎふ花き戦略会 議	後援
第 72 回日本おもと名品展 (H29. 11. 25~11. 26)	三原市民ギャラリー (広島県三原市)	公益社団法人日本おもと 協会	後援 会長賞
街路樹研修会 (特別回)「御堂筋 80 周年記 念街路樹フォーラム」	大阪市中央公会堂 (大阪市北区)	NPO 法人お ^{もり} おさか緑と樹 木の診断協会	後援
日本・オーストリア庭園文化シンポジウ ム (H29. 11. 20~11. 25)	京都・広島・東京	特定非営利活動法人環境 再生	後援
小品盆栽フェア第 26 回春雅展 (H30. 3. 23~3. 25)	花博記念公園鶴見緑地 内 ハナミズキホール (大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品 盆栽協会	後援 会長賞

2018 日本フラワー&ガーデンショウ (H30. 4. 20~4. 22)	パシフィコ横浜展示ホ ール A・B (神奈川県横浜市)	公益社団法人日本家庭園 芸普及協会	協賛
いけばなインターナショナル大阪支部第 27 回フェスティバル (H30. 4. 29)	大阪国際交流センター (大阪市天王寺区)	いけばなインターナシヨ ナル大阪支部	後援
第 20 回「国際バラとガーデニングショウ」 (H30. 5. 18~5. 23)	メットライフドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニング ショウ実行委員会	後援

(5) 国際交流事業

ア. 高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾

日本の高校生を台湾に派遣し、専門家の指導のもと、現地の高校生と合同で生き物の観察、調査を体験させる事業を実施した。更にその成果を兵庫県立人と自然の博物館の「共生のひろば(平成 30 年 2 月 11 日)」において高校生自らが発表する機会を設けた。

開催日：平成 29 年 8 月 1 日(火)～平成 29 年 8 月 5 日(土) 4 泊 5 日

(台風の影響で、6 泊 7 日の予定から 2 日間日程を短縮)

場 所：台湾：台北市立動物園および東眼山自然教育センター

講 師：秋山 弘之(兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員)

太田 英利(兵庫県立人と自然の博物館 研究部長)

山内 健生(兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員)

池田 忠広(兵庫県立人と自然の博物館 研究員)

櫻井 麗賀(兵庫県立人と自然の博物館 研究員)

ほか台北市立動物園研究者 4 名

参加者：日本人高校生 17 名、台湾人高校生 20 名

イ. 国際園芸博出展協力

中国・北京で 2019 年 4 月 29 日から同年 10 月 7 日の会期で開催予定の北京世界園芸博覧会の日本国出展に係る委員会に参加するなど、日本政府の出展準備作業に協力した。

ウ. ドイツ・ハンブルクでの桜の植樹

2017 年 7 月にドイツ・ハンブルクにおいて開催された G20 にあわせて、ハンブルクと我が国の友好を一層深めることを目的に、日本国政府の要請を受けて、日本原産の桜をハンブルクに植樹をしました。

4. 調査研究・資料収集事業

(1) 生物多様性等に関する調査

平成 28 年度に作成した「日本固有植物に学ぶ自然のしくみと共生の知恵」を活用して、兵庫県立人と自然の博物館と共催で、平成 28 年のコスモス国際賞受賞者岩槻邦男博士などを招いて、セミナー「固有種のふしぎ」を平成 30 年 3 月 21 日（水・祝）に開催した。参加者は約 110 名であった。

(2) 里山等の共生に関する調査

神戸市の相楽園会館にて平成 29 年 10 月 14 日（土）、日本造園学会関西支部との共催で、「これからの里山のあり方を展望する」をテーマに 120 名の参加を得て、シンポジウム（公開研究会）を開催した。

平成 29 年度

Ⅱ. 庶務・管理

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

II. 庶務・管理

1. 理事会、評議員会等

(1) 第93回理事会 平成29年6月14日(水)

開催場所：日本工業倶楽部会館（東京都千代田区）

決議事項：平成28年度事業報告並びに収支決算について

定時評議員会の招集について

評議員会に提出する評議員候補者名簿（案）について

評議員会に提出する理事候補者名簿（案）について

評議員会に提出する監事候補者名簿（案）について

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席7名、欠席1名、監事出席1名

(2) 第94回理事会 平成29年6月29日(木)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：会長（代表理事）、理事長（代表理事）、専務理事（業務執行理事）の選定について

出席等：提案書に対し、理事8名全員の書面による同意、また、監事2名からの書面により異議がない旨の意思表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。

(3) 第95回理事会 平成29年7月19日(水)

開催場所：JAビルカンファレンス（東京都千代田区）

決議事項：2017年（第25回）コスモス国際賞受賞者の決定について

特定資産の取崩しについて

評議員会の招集について

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席7名、欠席1名、監事出席1名

(4) 第96回理事会 平成30年3月23日(金)

開催場所：日本工業倶楽部会館（東京都千代田区）

決議事項：平成30年度資産運用方針書について

平成30年度事業計画及び収支予算について

特定資産について

平成30年度助成団体の決定について

助成事業実施規程の改正について

助成事業審査委員会委員の選任について

コスモス国際賞委員会委員の選任について

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席8名、欠席0名、監事出席1名

(5) 第50回評議員会 平成29年6月29日(木)

開催場所：関西文化サロン(大阪市北区)

決議事項：平成28年度事業報告及び収支決算書類の承認について

評議員の改選について

理事の改選について

監事の改選について

出席等：決議に必要な出席評議員の数7名、出席10名、欠席3名、監事出席1名、理事出席2名

(6) 第51回評議員会 平成29年8月30日(水)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

出席等：提案書に対し、評議員13名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、評議員会の決議があったものとみなされた。

2. 内閣府届出及び情報公開

平成29年6月に開催した理事会、評議員会における平成28年度事業報告及び収支決算、平成30年3月に開催した理事会における平成30年度事業計画及び収支予算について、それぞれ、内閣府に届出を行った。

また、定款、名簿、財務諸表等を協会事務所に据え置いたほか、協会ホームページにも掲載し、情報公開に努めた。

3. その他

第3者委員会として資産運用管理委員会を引き続き開催し、資産運用の業務状況を調査・確認し、代表理事に対して報告を行った。

協会組織は、代表理事2名、業務執行理事1名の体制のもと、2部3課制12名とした。

平成 29 年度

Ⅲ. 財 務 諸 表

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

貸借対照表

平成30年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	118,901,461	138,426,839	△19,525,378
未収収益	75,743,584	70,176,195	5,567,389
前払金	0	16,848	△16,848
流動資産合計	194,645,045	208,619,882	△13,974,837
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産普通預金	0	460,000,000	△460,000,000
基本財産定期預金	860,344,700	400,344,700	460,000,000
基本財産投資有価証券	29,655,300	29,655,300	0
基本財産合計	890,000,000	890,000,000	0
(2)特定資産			
記念基金	9,784,197,115	9,808,831,257	△24,634,142
退職給付引当資産	41,100,400	39,019,900	2,080,500
国際園芸博覧会出展事業積立資産	10,000,000	0	10,000,000
特定資産合計	9,835,297,515	9,847,851,157	△12,553,642
(3)その他固定資産			
投資有価証券	6,432,000	9,592,642	△3,160,642
什器備品	8	8	0
その他固定資産合計	6,432,008	9,592,650	△3,160,642
固定資産合計	10,731,729,523	10,747,443,807	△15,714,284
資産合計	10,926,374,568	10,956,063,689	△29,689,121
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	22,723,946	22,500,302	223,644
預り金	1,360,929	631,747	729,182
賞与引当金	2,921,316	2,469,125	452,191
流動負債合計	27,006,191	25,601,174	1,405,017
2. 固定負債			
退職給付引当金	41,100,400	39,019,900	2,080,500
固定負債合計	41,100,400	39,019,900	2,080,500
負債合計	68,106,591	64,621,074	3,485,517
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000,000,000	10,000,000,000	0
基本財産運用益	90,000,000	90,000,000	0
特定資産運用益	731,610,000	731,610,000	0
特定資産評価差額金等	△147,412,885	△122,778,743	△24,634,142
指定正味財産合計	10,674,197,115	10,698,831,257	△24,634,142
(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)	(890,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(9,784,197,115)	(9,808,831,257)	(△24,634,142)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
2. 一般正味財産	184,070,862	192,611,358	△8,540,496
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(10,000,000)	(0)	(10,000,000)
正味財産合計	10,858,267,977	10,891,442,615	△33,174,638
負債及び正味財産合計	10,926,374,568	10,956,063,689	△29,689,121

正味財産増減計算書

平成29年4月1日 から 平成30年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	6,846,810	923,164	5,923,646
基本財産受取利息	6,846,810	923,164	5,923,646
特定資産運用益	237,852,457	234,431,141	3,421,316
記念基金受取利息	237,830,419	234,008,982	3,821,437
特定資産受取利息	22,038	22,159	△121
記念基金償還益	0	400,000	△400,000
受取寄付金	3,000,000	3,000,000	0
受取寄付金	3,000,000	3,000,000	0
雑収益	83,501	455,800	△372,299
雑収益	83,501	455,800	△372,299
経常収益計	247,782,768	238,810,105	8,972,663
(2) 経常費用			
事業費	188,502,680	195,733,097	△7,230,417
役員報酬	8,305,500	8,295,000	10,500
給与手当	37,311,465	38,480,294	△1,168,829
法定福利費	6,237,483	6,672,526	△435,043
退職給付費用	1,144,691	1,428,253	△283,562
賃金	0	1,941,122	△1,941,122
職員厚生費	290,603	407,986	△117,383
会議費	1,661,805	1,717,668	△55,863
旅費交通費	8,413,768	5,926,075	2,487,693
通信運搬費	2,731,749	2,481,830	249,919
広告費	888,233	956,640	△68,407
消耗什器備品費	0	87,607	△87,607
消耗品費	1,826,086	2,484,335	△658,249
印刷製本費	3,144,690	5,152,665	△2,007,975
光熱水料費	2,460,979	2,426,101	34,878
修繕費	138,348	283,500	△145,152
役務費	15,876	0	15,876
委託費	28,080,952	28,068,565	12,387
賃借料	4,735,986	4,687,805	48,181
使用料	2,482,365	2,637,267	△154,902
保険料	202,972	202,972	0
諸謝金	5,962,219	5,770,346	191,873
租税公課	14,266	21,141	△6,875
支払負担金・会費	13,850,038	19,298,438	△5,448,400
支払助成金	15,162,547	15,667,800	△505,253
支払手数料	559,331	514,697	44,634

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
顕彰賞金	42,689,200	40,000,000	2,689,200
雑費	191,528	122,464	69,064
管理費	67,820,584	68,912,733	△1,092,149
役員報酬	3,559,500	3,555,000	4,500
給与手当	29,931,606	29,849,588	82,018
法定福利費	5,663,420	5,738,035	△74,615
退職給付費用	935,809	1,125,847	△190,038
賃金	0	831,909	△831,909
職員厚生費	237,574	321,603	△84,029
会議費	712,202	736,145	△23,943
旅費交通費	3,605,900	2,539,747	1,066,153
通信運搬費	1,170,749	1,063,639	107,110
広告費	380,671	409,989	△29,318
消耗什器備品費	0	37,546	△37,546
消耗品費	782,609	1,064,714	△282,105
印刷製本費	1,347,725	2,208,285	△860,560
光熱水料費	1,054,705	1,039,757	14,948
修繕費	59,292	121,500	△62,208
役務費	6,804	0	6,804
委託費	12,034,695	12,029,386	5,309
賃借料	2,029,707	2,009,060	20,647
使用料	1,063,870	1,130,258	△66,388
保険料	86,988	86,988	0
諸謝金	2,555,237	2,473,006	82,231
租税公課	6,114	9,061	△2,947
支払負担金・会費	273,610	258,600	15,010
支払手数料	239,713	220,585	19,128
雑費	82,084	52,485	29,599
経常費用計	256,323,264	264,645,830	△8,322,566
当期経常増減額	△8,540,496	△25,835,725	17,295,229
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△8,540,496	△25,835,725	17,295,229
一般正味財産期首残高	192,611,358	218,447,083	△25,835,725
一般正味財産期末残高	184,070,862	192,611,358	△8,540,496
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	3,000,000	3,000,000	0
受取寄付金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産運用益	6,846,810	923,164	5,923,646
基本財産受取利息	6,846,810	923,164	5,923,646

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
特定資産運用益	246,861,061	238,895,708	7,965,353
記念基金受取利息	240,991,061	237,624,608	3,366,453
記念基金投資有価証券償還益	5,870,000	1,271,100	4,598,900
特定資産評価益	0	30,348,269	△30,348,269
記念基金投資有価証券評価益	0	30,348,269	△30,348,269
特定資産評価損	△30,504,142	0	△30,504,142
記念基金投資有価証券評価損	△30,504,142	0	△30,504,142
一般正味財産への振替	△250,837,871	△241,947,772	△8,890,099
一般正味財産への振替	△250,837,871	△241,947,772	△8,890,099
当期指定正味財産増減額	△24,634,142	31,219,369	△55,853,511
指定正味財産期首残高	10,698,831,257	10,667,611,888	31,219,369
指定正味財産期末残高	10,674,197,115	10,698,831,257	△24,634,142
Ⅲ 正味財産期末残高	10,858,267,977	10,891,442,615	△33,174,638

正味財産増減計算書内訳表

平成29年4月1日 から 平成30年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,054,042	4,792,768	6,846,810
基本財産受取利息	2,054,042	4,792,768	6,846,810
特定資産運用益	166,496,721	71,355,736	237,852,457
記念基金受取利息	166,481,294	71,349,125	237,830,419
特定資産受取利息	15,427	6,611	22,038
受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
雑収益	83,501	0	83,501
雑収益	83,501	0	83,501
経常収益計	171,634,264	76,148,504	247,782,768
(2) 経常費用			
事業費	188,502,680	0	188,502,680
役員報酬	8,305,500	0	8,305,500
給与手当	37,311,465	0	37,311,465
法定福利費	6,237,483	0	6,237,483
退職給付費用	1,144,691	0	1,144,691
職員厚生費	290,603	0	290,603
会議費	1,661,805	0	1,661,805
旅費交通費	8,413,768	0	8,413,768
通信運搬費	2,731,749	0	2,731,749
広告費	888,233	0	888,233
消耗品費	1,826,086	0	1,826,086
印刷製本費	3,144,690	0	3,144,690
光熱水料費	2,460,979	0	2,460,979
修繕費	138,348	0	138,348
役務費	15,876	0	15,876
委託費	28,080,952	0	28,080,952
賃借料	4,735,986	0	4,735,986
使用料	2,482,365	0	2,482,365
保険料	202,972	0	202,972
諸謝金	5,962,219	0	5,962,219
租税公課	14,266	0	14,266
支払負担金・会費	13,850,038	0	13,850,038
支払助成金	15,162,547	0	15,162,547
支払手数料	559,331	0	559,331
顕彰賞金	42,689,200	0	42,689,200
雑費	191,528	0	191,528

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	67,820,584	67,820,584
役員報酬	0	3,559,500	3,559,500
給与手当	0	29,931,606	29,931,606
法定福利費	0	5,663,420	5,663,420
退職給付費用	0	935,809	935,809
職員厚生費	0	237,574	237,574
会議費	0	712,202	712,202
旅費交通費	0	3,605,900	3,605,900
通信運搬費	0	1,170,749	1,170,749
広告費	0	380,671	380,671
消耗品費	0	782,609	782,609
印刷製本費	0	1,347,725	1,347,725
光熱水料費	0	1,054,705	1,054,705
修繕費	0	59,292	59,292
役務費	0	6,804	6,804
委託費	0	12,034,695	12,034,695
賃借料	0	2,029,707	2,029,707
使用料	0	1,063,870	1,063,870
保険料	0	86,988	86,988
諸謝金	0	2,555,237	2,555,237
租税公課	0	6,114	6,114
支払負担金・会費	0	273,610	273,610
支払手数料	0	239,713	239,713
雑費	0	82,084	82,084
經常費用計	188,502,680	67,820,584	256,323,264
当期經常増減額	△16,868,416	8,327,920	△8,540,496
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△16,868,416	8,327,920	△8,540,496
一般正味財産期首残高	78,872,013	113,739,345	192,611,358
一般正味財産期末残高	62,003,597	122,067,265	184,070,862
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
基本財産運用益	2,054,042	4,792,768	6,846,810
基本財産受取利息	2,054,042	4,792,768	6,846,810
特定資産運用益	172,802,743	74,058,318	246,861,061
記念基金受取利息	168,693,743	72,297,318	240,991,061
記念基金投資有価証券償還益	4,109,000	1,761,000	5,870,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
特定資産評価損	△21,352,899	△9,151,243	△30,504,142
記念基金投資有価証券評価損	△21,352,899	△9,151,243	△30,504,142
一般正味財産への振替	△173,747,785	△77,090,086	△250,837,871
一般正味財産への振替	△173,747,785	△77,090,086	△250,837,871
当期指定正味財産増減額	△17,243,899	△7,390,243	△24,634,142
指定正味財産期首残高	7,465,181,885	3,233,649,372	10,698,831,257
指定正味財産期末残高	7,447,937,986	3,226,259,129	10,674,197,115
Ⅲ 正味財産期末残高	7,509,941,583	3,348,326,394	10,858,267,977

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっている。

②満期保有目的の債券以外の有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

その他の固定資産

什器備品…定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、職員の退職手当支給規程に基づき、期末要支給額を計上している。

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	460,000,000	0	460,000,000	0
定期預金	400,344,700	460,000,000	0	860,344,700
投資有価証券	29,655,300	0	0	29,655,300
小 計	890,000,000	460,000,000	460,000,000	890,000,000
特定資産				
記念基金	9,808,831,257	4,300,000,000	4,324,634,142	9,784,197,115
退職給付引当資産	39,019,900	2,080,500	0	41,100,400
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	0	10,000,000	0	10,000,000
小 計	9,847,851,157	4,312,080,500	4,324,634,142	9,835,297,515
合 計	10,737,851,157	4,772,080,500	4,784,634,142	10,725,297,515

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	860,344,700	(860,344,700)	(0)	-
投資有価証券	29,655,300	(29,655,300)	(0)	-
小 計	890,000,000	(890,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
記念基金	9,784,197,115	(9,784,197,115)	(0)	(0)
退職給付引当資産	41,100,400	-	-	(41,100,400)
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	10,000,000	-	(10,000,000)	(0)
小 計	9,835,297,515	(9,784,197,115)	(10,000,000)	(41,100,400)
合 計	10,725,297,515	(10,674,197,115)	(10,000,000)	(41,100,400)

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	品 名	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	花博会場模型	10,036,290	10,036,289	1
	コスモス国際賞顕彰品レプリカ	2,200,000	2,199,999	1
	ラフレシア(花)標本	4,506,293	4,506,292	1
	DVDレコーダー	165,000	164,999	1
	液晶テレビ	593,620	593,619	1
	ノートパソコン	193,200	193,199	1
	デジタルビデオカメラ	106,500	106,499	1
	プロジェクター	147,000	146,999	1
合 計		17,947,903	17,947,895	8

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産			
第328回利付国債	29,655,300	31,062,600	1,407,300
小 計	29,655,300	31,062,600	1,407,300
特定資産及びその他固定資産			
記念基金及び投資有価証券			
第3回日本電産社債	100,619,464	103,580,000	2,960,536
第8回パナソニック社債	100,966,579	101,900,000	933,421
第20回みずほ銀行劣後債	101,810,045	105,160,000	3,349,955
第41回阪急阪神HD社債	103,035,912	106,720,000	3,684,088
小 計	406,432,000	417,360,000	10,928,000
合 計	436,087,300	448,422,600	12,335,300

6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単価:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	6,846,810
記念基金受取利息	240,991,061
受取寄付金	3,000,000
合 計	250,837,871

7 その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の大部分を運用益によって賄うため、債券、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品(仕組債、仕組預金)のみであり、運用限度枠を設けている。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

2. 金融商品の内容及びそのリスク

記念基金に含まれる投資有価証券は、債券、デリバティブ取引を組み込んだ債券(仕組債)が含まれており、発行体の信用リスク、市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク)にさらされている。なお、当該投資有価証券には、リスクが高いものとして、中途解約が著しく制約されていることにより、満期到来までに資金化することが困難な流動性に乏しい債券(仕組債)5,050百万円が含まれている。

3. 金融商品のリスクに係る管理体制

①資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用管理規程及び資産運用基準に基づき行う。

②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記3. に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	2,469,125	2,921,316	2,469,125	0	2,921,316
退職給付引当金	39,019,900	2,080,500	0	0	41,100,400

財産目録

平成30年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額			
(流動資産)	現金預金	手元保管 りそな銀行大阪公務部 三菱東京UFJ銀行大阪公務部 三井住友銀行大阪公務部 みずほ銀行大阪支店 三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部	運転資金として	219,832			
			運転資金として	17,597,155			
			運転資金として	9,215,941			
			運転資金として	39,740,117			
			運転資金として	47,197,163			
			運転資金として	4,931,253			
	現金預金合計	118,901,461					
未収収益		公益目的事業及び管理目的の財源として使用する債券等の未収利息	75,743,584				
流動資産合計				194,645,045			
(固定資産)	基本財産	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	344,700			
			うち公益目的保有財産である	103,410			
			うち管理目的の財源として使用する財産である	241,290			
			三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	860,000,000		
				うち公益目的保有財産である	258,000,000		
				うち管理目的の財源として使用する財産である	602,000,000		
	特定資産	投資有価証券	第328回利付国債	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	29,655,300		
				うち公益目的保有財産である	8,896,590		
				うち管理目的の財源として使用する財産である	20,758,710		
				基本財産合計	890,000,000		
				記念基金	関西国際空港20年債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	9,784,197,115
						うち公益目的保有財産である。	6,422,607,181
	うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,752,545,934					
	投資有価証券	第8回パナソニック社債他	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	400,000,000			
			うち公益目的保有財産である。	280,000,000			
うち管理目的の財源として使用する財産である。			120,000,000				
普通預金	みずほ銀行大阪支店	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	209,044,000				
		うち公益目的保有財産である。	146,330,800				

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定 資産	退職給付引当資産		うち管理目的の財源として使用する財産である。	62,713,200
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	41,100,400
	信託受益権	三井住友銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	31,100,400
	国際園芸博覧会出 展事業積立資産			10,000,000
	普通預金	三井住友銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、北京国際園芸博覧会事業の財源として管理している。	10,000,000
			特定資産合計	9,835,297,515
	投資有価証券	第8回パナソニック社債他 (オーバーパー部分)	公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	6,432,000
その他固定 資産	投資有価証券	第8回パナソニック社債他 (オーバーパー部分)	うち公益目的保有財産である。	4,502,400
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	1,929,600
	什器備品	花博会場模型等	公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	8
固定資産合計				10,731,729,523
資産合計				10,926,374,568
(流動負債)	未払金	平成29年度助成事業対象者に対する未払額等	公益目的事業及び管理目的の業務等未払い分	22,723,946
	預り金	役職員に対するもの	源泉徴収税等	1,360,929
	賞与引当金	職員に対するもの	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	2,921,316
流動負債合計				27,006,191
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対するもの	職員7名に対する退職金の支払いに備えたもの	41,100,400
固定負債合計				41,100,400
負債合計				68,106,591
正味財産				10,858,267,977

平成 29 年度

IV. 監 査 報 告 書

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

監査報告書

平成 30 年 5 月 25 日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
会長 今 井 敬 様

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

堀 井 良 殷

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

北 山 諒 一

私たち監事は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意志疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他必要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上